

あんな鳥
こんな鳥

特別展 ちがさきの野鳥と自然 ～里の鳥たち～
2007. 2. 2 fri → 2.25 sun



はじめに

都市化が進む中、市内にも小出川や千ノ川などの河川、県立茅ヶ崎里山公園や柳谷、市民の森、清水谷、海岸地域には、貴重な自然が残っています。茅ヶ崎市文化資料館では、市内での野鳥の生息分布や野鳥の種類を確認することを目的に、市民ボランティアの方々とともに調査を実施してきました。

今回の特別展は「ちがさきの野鳥と自然～里の鳥たち～」をテーマに、市内で生息している野鳥とその生態の展示及び、調査結果を展覧いたします。展示においては、市域を里山・里地・里川・里海・市街地に区分し、そこで確認される野鳥を、写真や図表、キャプション、ジオラマ、剥製標本、植物標本、カービングなどの資料を用いて展示いたします。

ご来館の皆様が、身近に見られる野鳥に興味関心をもっていただくことにより、親しむ機会を増やし、「ちがさき」というまちにも貴重な自然が存在することを発見していただきますよう、特別展のための調査・準備に参加した市民ボランティアの方々、当館のスタッフ一同願っております。

また特別展の開催にあたり、調査、資料収集、製作や写真提供、会場整理など、多くの方々のご協力を賜り、そのご厚意に心からお礼申し上げます。また今回の展示は、当館で資料整理作業に携わっていただいている皆様の日頃の成果の賜物でございます。ご協力いただいた皆様に対し、深く敬意を表し、お礼申し上げますとともに、ご覧いただきます皆様にもこの点をお汲み取りいただきますようお願い申し上げます。

最後に、今回の特別展が、郷土の貴重な自然にふれる良い機会となり、より多くの皆様にまちに対する興味をお持ちいただければ幸いです。

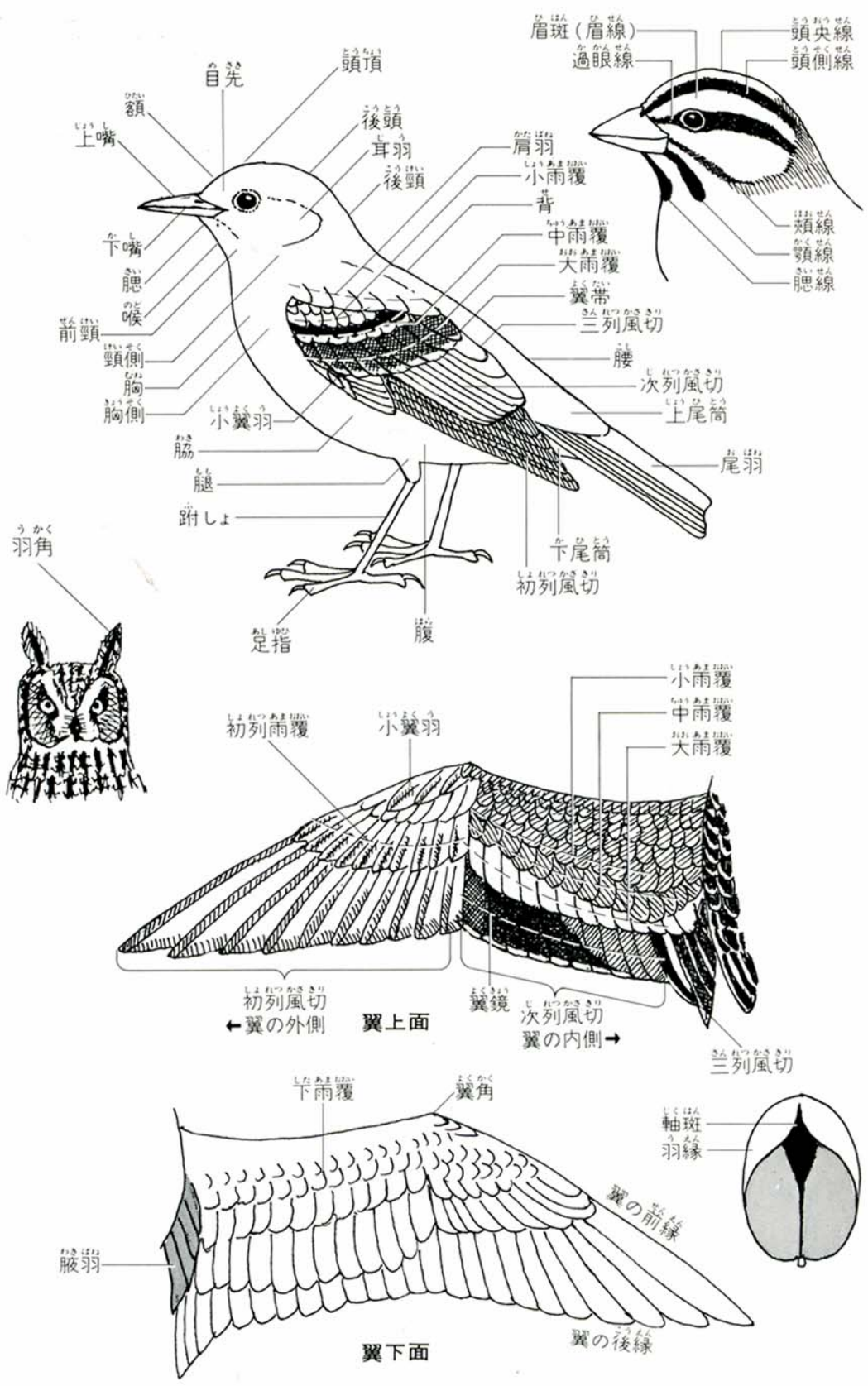
平成19年（2007年）2月

茅ヶ崎市教育委員会

も く じ

● 野鳥の部位名称	-----	3
● 野鳥を観るポイント	-----	4
● 鳥類の特徴	-----	8
(1) 羽におおわれた動物		
(2) 飛ぶ、歩く		
(3) ついばむ、切り裂く		
● 茅ヶ崎の自然	-----	13
● 市内野鳥分布調査	-----	14
(1) 調査概要		
(2) 里山		
(3) 里地・里川		
(4) 市街地		
(5) 里海		
(6) 調査結果図表		
● 野鳥のくらし	-----	25
(1) 野鳥が運んだ自然		
(2) 野鳥が食べる植物		
(3) 捕る、食べる		
(4) 電線鳥		
(5) 鳥の羽と羽ばたき		
(6) 育てる		
● とともに生きる	-----	33
● 鳥の用語集	-----	34

野鳥の部位名称



『フィールドガイド 日本の野鳥』(財)日本野鳥の会より

野鳥を観るポイント

野鳥を観察するときのポイントを紹介します。

1) 大きさと形

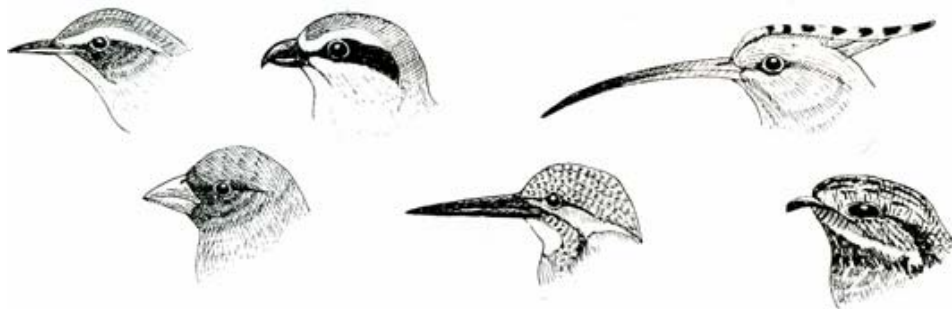
よく知っている鳥と比較してみる



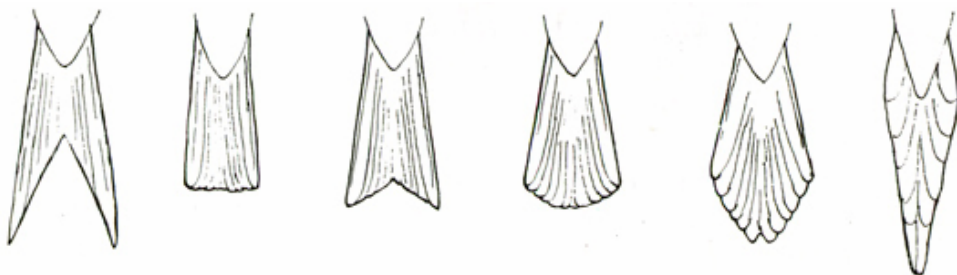
- 体の形：ふっくらしているか？ほっそりしているか？



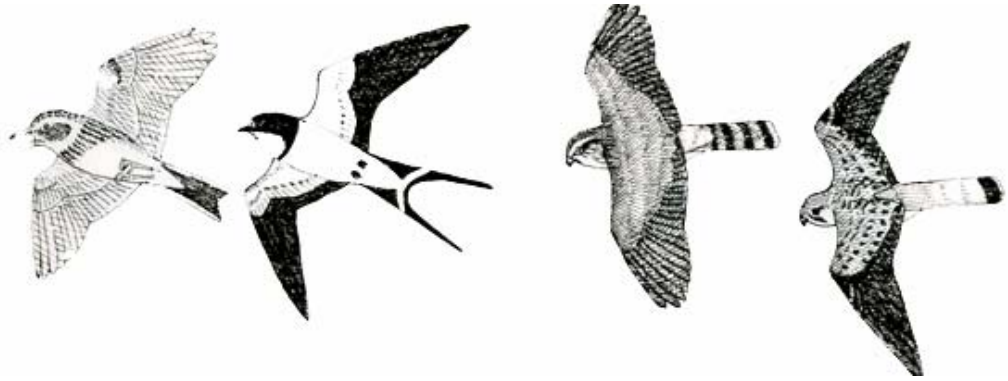
- 嘴の大きさと形：短いか長い？太いか細い？まっすぐかまがっているか？



- 尾の長さや形：尾は短いか長い？角ばっているか？円形か？くさび形か？



- 翼の形：長いか短いか？先が丸いかとがっているか？



2) 色彩とパターン

目立つ色彩やはっきりした線、斑紋に注意する。

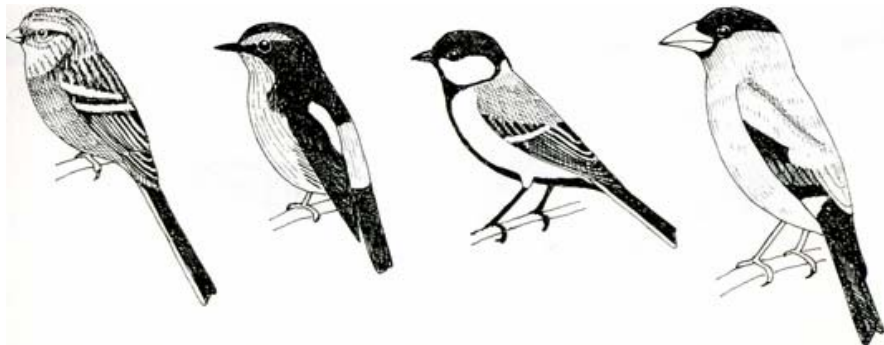
- 顔と頭



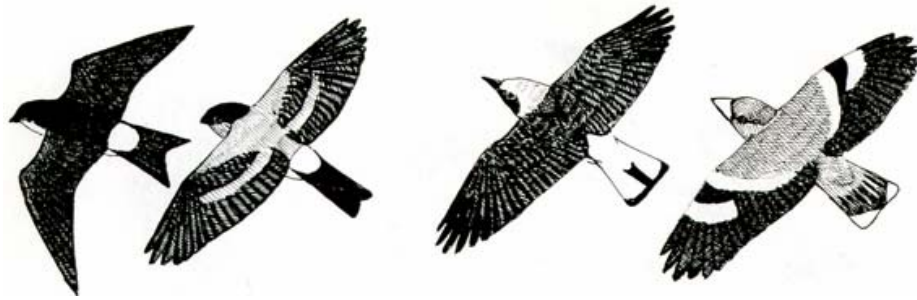
- 下面



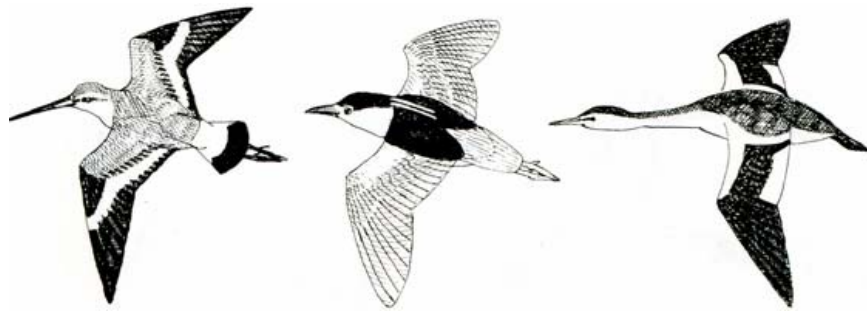
- 体や翼の上面



● 腰と尾

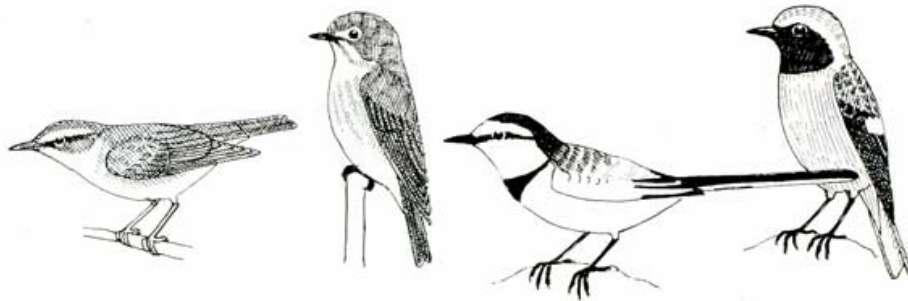


● 飛翔中の翼の上面

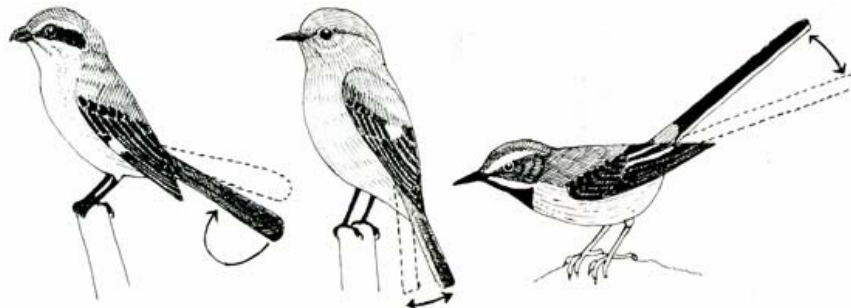


3) 動作

● とまっている時の姿勢：水平か？垂直か？



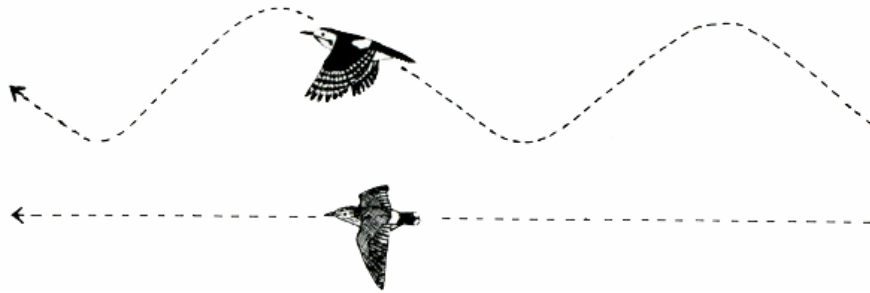
● 尾の動かし方



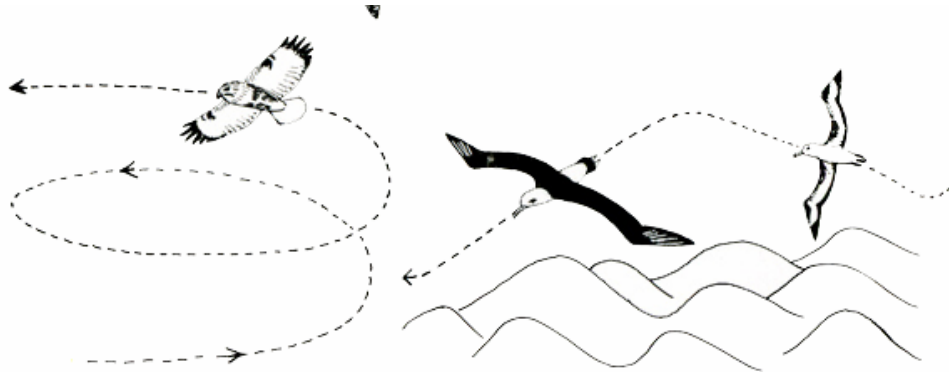
- 幹へのとまり方：木に平行に上を向いてとまるか？下を向くか？



- 飛び方：直線状か？ 波形か？



帆翔をするか？



停空飛翔するか？



※P4~7 までの図は全て『あつぎの野鳥』（厚木市教育委員会、2001）より

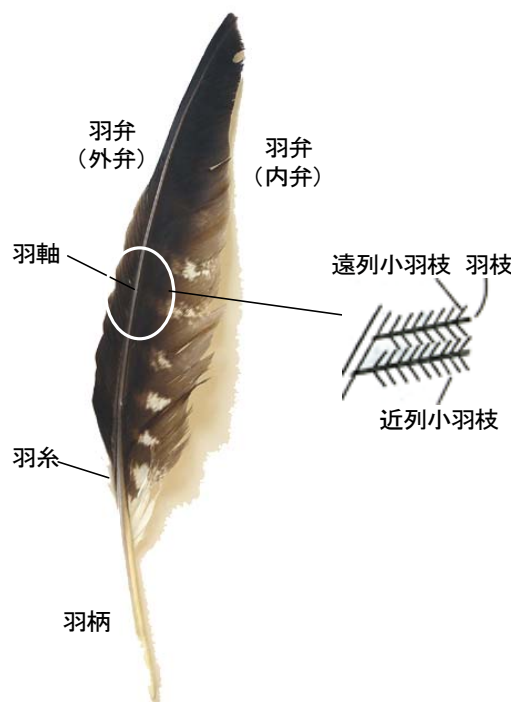
鳥類の特徴

● 羽におおわれた動物

野鳥の特徴には、飛ぶこと、歯がないこと、鳴くことなどがありますが、一番の特徴は、飛ぶためにもった「羽」です。

ではいったい1羽の野鳥には、何枚の羽があるのでしょうか？体の大きさやその暮らし方などとの関係から、種ごとに異なっています。同じ種でも小柄な個体と大柄な個体では異なっているようです。

全長34cm、体重275gのヤマシギ（シギ科）を調べたところ5,107枚を数えました。体の部位ごとに羽の枚数が異なっています。頭を覆っている羽の枚数は多いですが、大きさが翼羽よりも小さいものが主となっています。



トビの左翼初列風切羽

図1 羽の構造（トビ）

● 飛ぶ、歩くための体

鳥という動物の特徴的な能力は、昆虫やコウモリなどと同様に自力で「飛ぶ」ことです。羽を使い、風をうまく利用して飛びます。羽ごとのその役割を少し紹介します。

初列風切羽（P3を参照）は、プロペラのようにねじって風を切り、前進する力を生みます。次列風切羽は、空中に舞い上がる役目があります。

鳥が飛ぶ仕組みを簡単に実験することができます。薄い紙の両端を持ち、口の前で勢いよく息を吹きかけます。すると紙が舞い上がります。



図2 浮力の実験（『鳥』（ほるぷ社）より）

また骨にも飛ぶための秘密が隠されています。それは強度と軽さです。アオバトの上腕骨は、中が空洞になっています。またその両端には支柱があります。鳥の骨を竹のしなやかさと丈夫さにたとえることがあります。

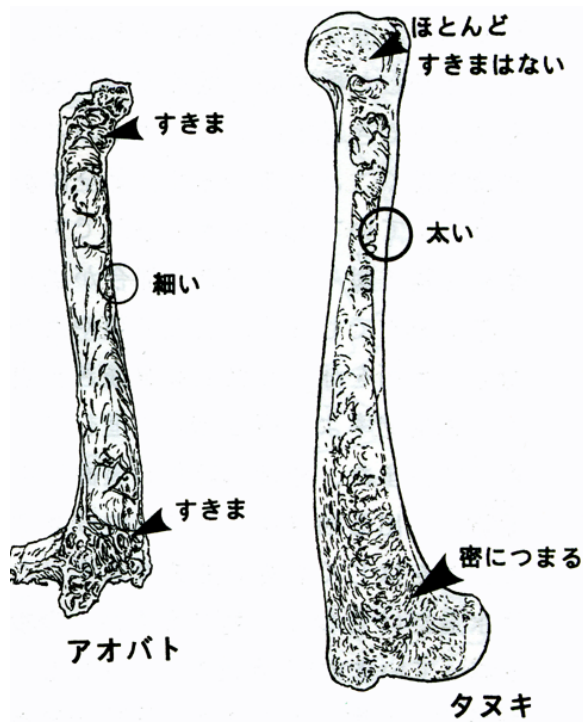


図3 アオバトとタヌキの上腕骨内部構造

このことは、歩行が主となるタヌキの上腕骨と比べると分かります。タヌキの場合、骨が太く、両端の支柱も密度が高く、隙間が少ないのがわかります。「歩く」ために、強度をより重視していることが考えられます。

また鳥の全身の骨格を見た場合、翼を動かす筋肉がついた胸骨や鳥喙骨が目立ちます。トラツグミの骨を例に見てみましょう。強い力がかかるため、大きくて丈夫な構造になったものだと考えられます。ちなみに、歩行を優先する鳥類の胸骨が、飛ぶことを優先している鳥類に比べ小さいということも興味深いです。このように、飛ぶために軽量化や強度を上げている部分など、部位によって骨の構造が違うのも、飛ぶために鳥が得た特徴だと考えられます。

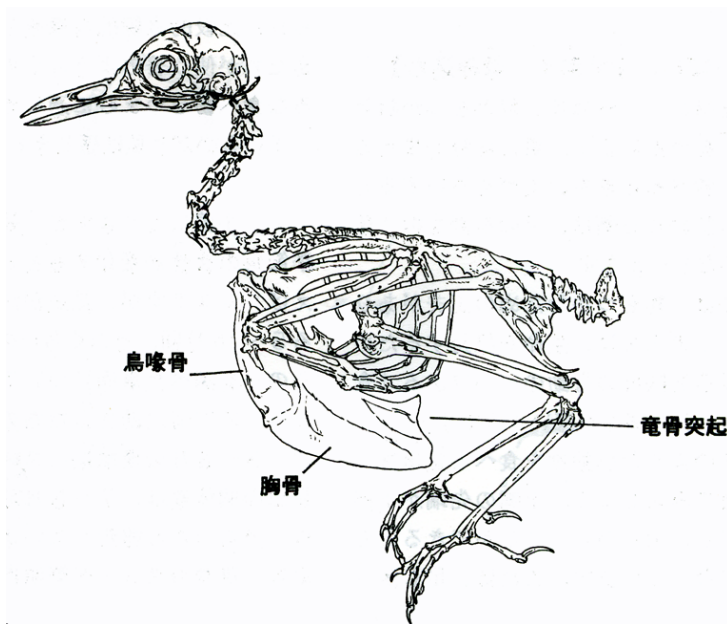


図4 トラツグミの全身骨格

● ついばむ、切り裂く

手を持たない野鳥は、嘴を使います。巣の材料を集めるときも、食べるときも、羽づくろいするときも嘴を使います。嘴の構造は、「食べる」と大きく関係しています。

ツミのように小動物を食べる猛禽類の嘴は先端が鍵状に曲がって、引っ掛けることができるようになっていました。これは、足を使って切り裂くためにこのような形になっていると考えられます。

タシギのように長い嘴を持った種もいます。これは、湿地や干潟、水辺などでくらす鳥類に見られる特徴で、幅が広くて、おろし金のようにギザギザしています。歯がない口のため、すべりにくくするためだと考えられています。

イカルやシメの場合は、硬い種子や果実を割るため、太く短い頑丈な形状をしています。

またコジュケイなどの雑食性の鳥類は、ついばむために直線的な嘴をしています。以上のことから、鳥たちの嘴は「食べる」ために適していることが分かります。

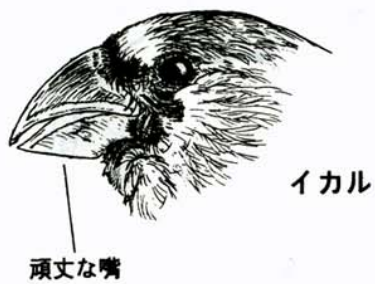
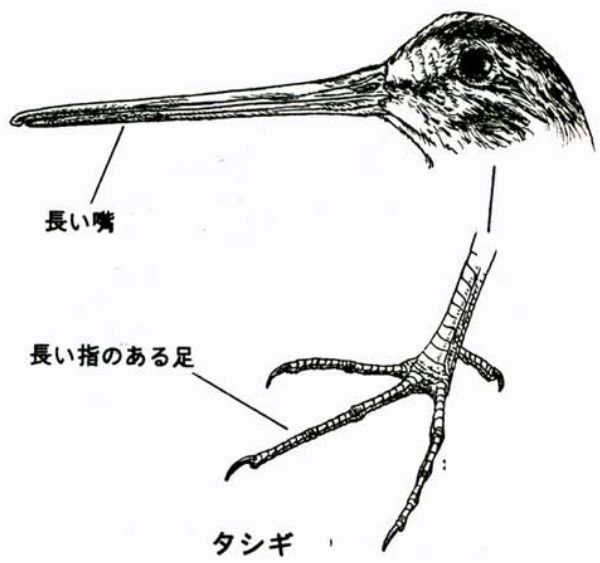
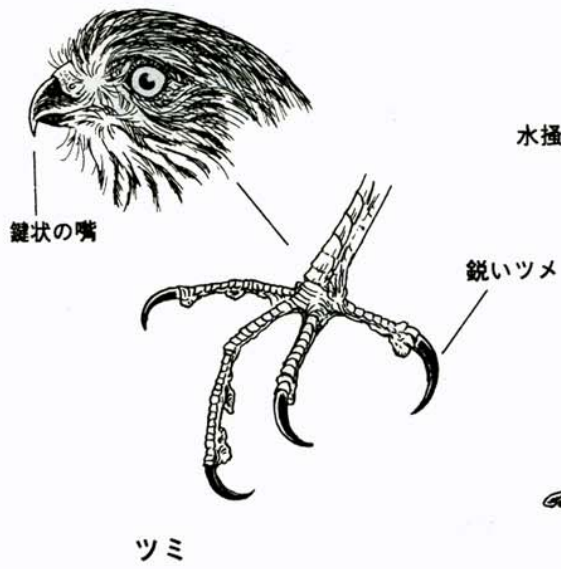
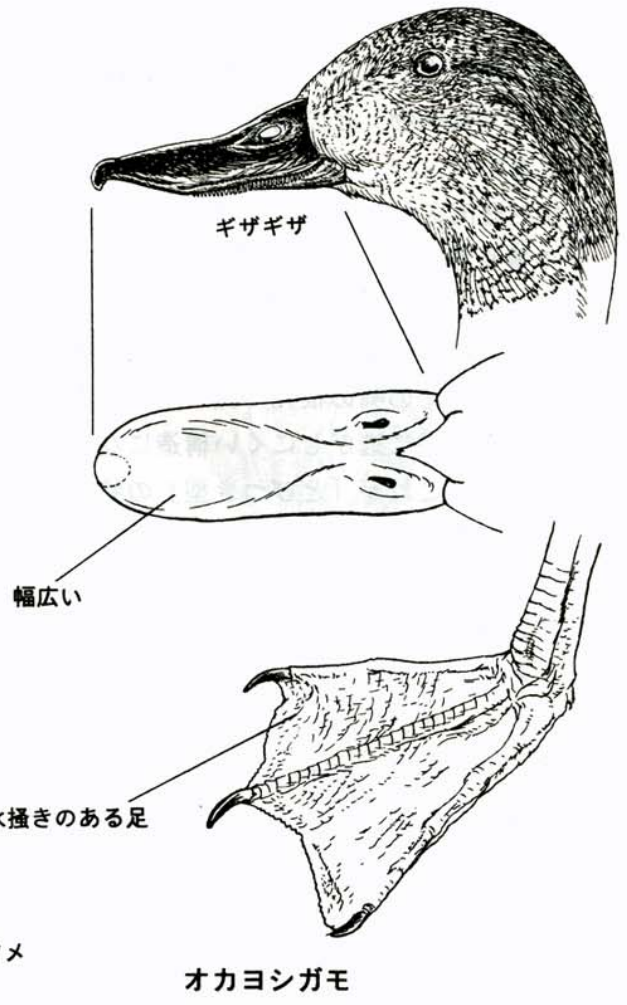
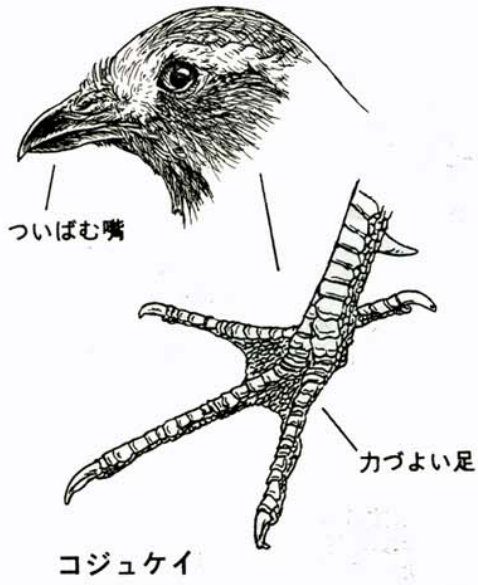


図5 いろいろな嘴と足

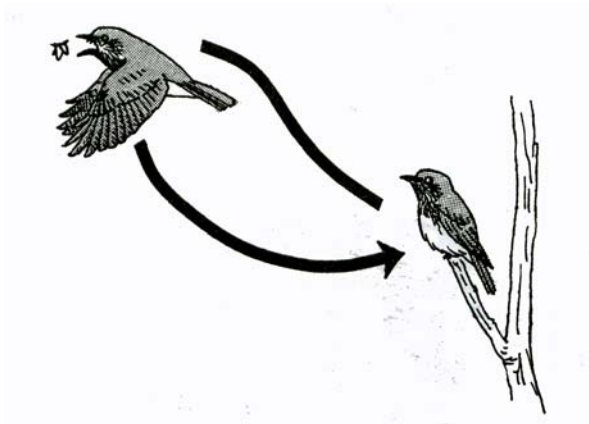


図6 フライングキャッチ（ヒタキ類）



図7 虫をついばむシジュウカラ

※ 図3～7『あつぎの野鳥』（厚木市教育委員会、2001）より

茅ヶ崎の自然

● 茅ヶ崎の自然概観

茅ヶ崎市は東西 6.94 km、南北 7.60 km、周囲 30.46 kmで、面積が 35.76k m²のまちです。相模湾に面し、北部には高座丘陵の南縁にあたり関東ローム層で形成された丘陵地があります。丘陵地から海岸に至るまでは、河川が運んだ土砂の堆積などによりできた沖積低地といわれる平地や、砂丘地があります。また姥島では茅ヶ崎で最も古い地層がみられます。

このような多彩な自然環境の中で、貴重な自然が育まれてきました。北部丘陵地には雨水や河川などの浸食によってできた谷戸が数多くあります。かつては湧水に恵まれ、豊かな植物相と生態系がありました。現在では、堤の清水谷などで貴重な谷の自然にふれることができます。沖積低地は宅地化が進む以前は、広々とした農地があり、屋敷林や社寺林なども多くに見られ、現在でも一部の地域ではその姿が残されています。河川は農耕作の水利に重要な役割を果たすとともに、水田地帯と一体となり様々な植物や生き物を育ててきました。砂丘地の大部分は宅地となりましたが、砂防林として植林されたクロマツが海岸線を彩り、海岸やその付近では、海浜性の植物を見ることができます。

● 茅ヶ崎の自然の中の野鳥

昆虫、クモ、野鳥の種類数を比べた場合、野鳥の種数の割合は約5%ですが、食物連鎖の観点から見た場合、野鳥の存在は、茅ヶ崎の自然環境の中では重要な位置を占めています。

今回の調査で、茅ヶ崎市内に、31科 88種の野鳥が確認できました。この種数は、神奈川県で記録されている種類の約 21%にあたります。海や内陸、河川、水辺の各地域で観察できる野鳥は、茅ヶ崎の自然の貴重な資源の一つです。野鳥が生息しているということは、その食べ物となる植物の種子や果実、昆虫などの動植物が、野鳥が生息できるだけ存在するという一つの指標になると考えられます。



市内野鳥分布調査

(1) 調査概要

今回の特別展を開催するにあたり、市内を里山、里地・里川、市街地、里海の4つの区分けし、市域に生息する野鳥の分布調査、生態観察を行いました。

調査期間：平成16(2004)年4月～平成18(2006)年12月

調査地：茅ヶ崎市全域

調査結果：31科88種を確認(詳細は図14を参照)

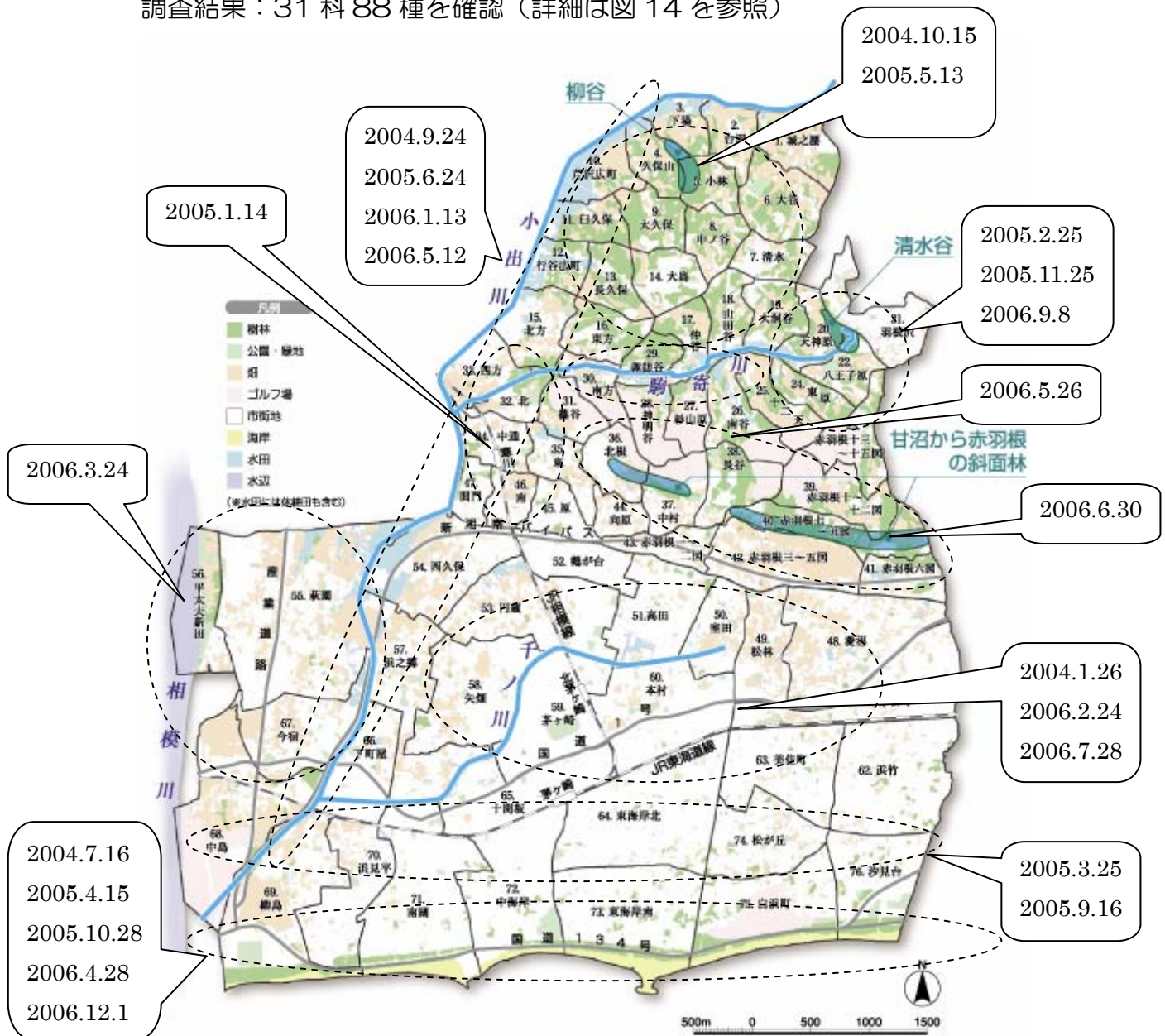


図8 調査区域(『茅ヶ崎市自然環境評価調査 概要報告』茅ヶ崎市、2006)

(2) 里山

調査結果：25科 49種

茅ヶ崎市の北部一帯の谷戸底を含めた標高約20m以上の丘陵地で、具体的には甘沼、赤羽根、堤、芹沢地域内で、2つのゴルフ場周囲、女子美跡地、市民の森、清水谷、県立茅ヶ崎里山公園のなどを「里山」としました。緑と水に恵まれ野鳥が住みやすい地域で野山の野鳥が集まってきます。

里山公園付近ではキセキレイの営巣地を発見しました。地上から3mほどの高さにある、赤土が露出した斜面に作られた巣に、餌をくわえた親鳥が出入りしていました。

女子跡地では、ホオジロの雌雄が2cmほどの青っぽい幼虫をくわえて、周囲をうかがっていたので、近くにヒナのいる巣があったと思われます。

市民の森では、スギの大木に巣穴の跡が見つかりました。キツツキ科の鳥の巣穴のようですが、アオゲラかアカゲラで種の確認はできませんでした。この市民の森から清水谷一体で、キツツキ科のコゲラ、アオゲラ、アカゲラの3種を確認しました。また清水谷内で、希少種のミソサザイ（ミソサザイ科）やカケス（カラス科）を一度ずつ確認することができました。



(3) 里地・里川

調査結果：25科 58種

相模川と小出川に挟まれた平坦な地域及び小出川（上流は追出橋以北）や千ノ川、丘陵の最南端部に囲まれた平坦な低地を「里地・里川」としました。具体的には萩園、浜之郷、西久保、矢畑、円蔵、高田、室田、本村、菱沼などの地域です。

小出川や千ノ川は、田畑や市街地の中を流れている川で、水源地である地域は生物相が厚くなっています。特に野鳥に関しては、その傾向が伺えます。

春は冬鳥のカモ科のコガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、マガモが繁殖地へ渡っていきます。カワセミやチョウゲンボウも繁殖期に観られます。カルガモの親子の遊泳が観察でき、夏は水辺付近のオオブタクサ、ヨシ、ススキなど草が青々と茂り、背丈も高く伸びているので多くの小型の野鳥の生活場所、セッカやオオヨシキリバンなどの繁殖場所になっています。

川面ではツバメ、イワツバメが飛び交います。また冬鳥のカモ科の鳥が繁殖地から越冬のために渡来する姿が秋から翌春まで観察できます。チドリ科で最も大きいタゲリは、水田に舞い降ります。ヒバリのさえずりが確認できるのも、この地域のみになってきています。

千ノ川は上流から河口まで両岸がコンクリート護岸になり、川底の整備が行われています。未整備の場所では、カルガモ、マガモ、コガモが遊泳や採餌しています。カワウも潜水し小魚を捕るすがたが観られます。カワセミ、イソシギ、バンも観察できます。新千ノ川橋から小出川と合流する中島橋まででは、多くの野鳥を観察することができます。



(4) 市街地

調査結果：17科 25種

家が建ち並ぶ住宅地、商店、工場が密集している地域を、「市街地」としました。具体的には、千ノ川周辺より南側の、国道1号と鉄砲道に挟まれた範囲で、十間坂、本村、茅ヶ崎（中央公園周辺）、茅ヶ崎駅周辺、東海岸北（高砂緑地周辺）、松が丘（浜須賀中学校周辺）、松浪の地域です。

もとは砂地や砂丘地でしたが、その土地をさらに土盛り、コンクリートやアスファルトで舗装されたところが多く、庭に木が植えられ、道路沿いには街路樹が植えられ、「実のなる木」が多くあるのも特徴です。

このような環境の市街地にも、さまざまな野鳥が生息しています。茅ヶ崎駅周辺ではハシボソガラス、ハシブトガラスというカラスの仲間の鳥、街路樹の中に2羽で入ったり出たりするキジバト、マツの枯木に飛来するコゲラもやってきます。

地面すれすれに飛ぶツバメが、得意のツバメ返しをしているすがたが確認されています。スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、地面を歩くハクセキレイも見られます。

最近、茅ヶ崎駅南口のバスターミナル付近のフサアカシアやホルトノキがハクセキレイのねぐらになっているのが確認されています。夕方から集まり、駅舎の屋根に留まり、そしてねぐらの木に集まります。子育てが終わった9月から春先まで、多いときには数百羽になることもあるようです。



(5) 里海

調査結果：23科37種

「里海」は、国道134号より南側、平島、姥島（烏帽子岩）までの海上を含めた地域としました。西は柳島から、東は汐見台までです。

相模湾沿岸には、冬になると、カンムリカイツブリが多いときには数羽の群で見られます。また海面にはウミネコ、ユリカモメなどのカモメ科の群が浮かび、潜水の得意なウ科のカワウやウミウも観察できます。

砂浜にはチドリ科のシロチドリ、シギ科の小型のミユビシギ、中型のチュウシャクシ

ギ、オオソリハシシギもまれに観察できます。

砂防林の松林ではホオジロ、ウグイス、メジロ・カワラヒワが生息しています。トビやカラス科のオナガやハシブトガラス、ハシボソガラス、ハト科のキジバト、ドバトが主な鳥になっています。

また柳島では、ツバメ科のツバメ、コシアカツバメ、イワツバメが飛翔しているのが確認されています。



(6) 調査結果図表

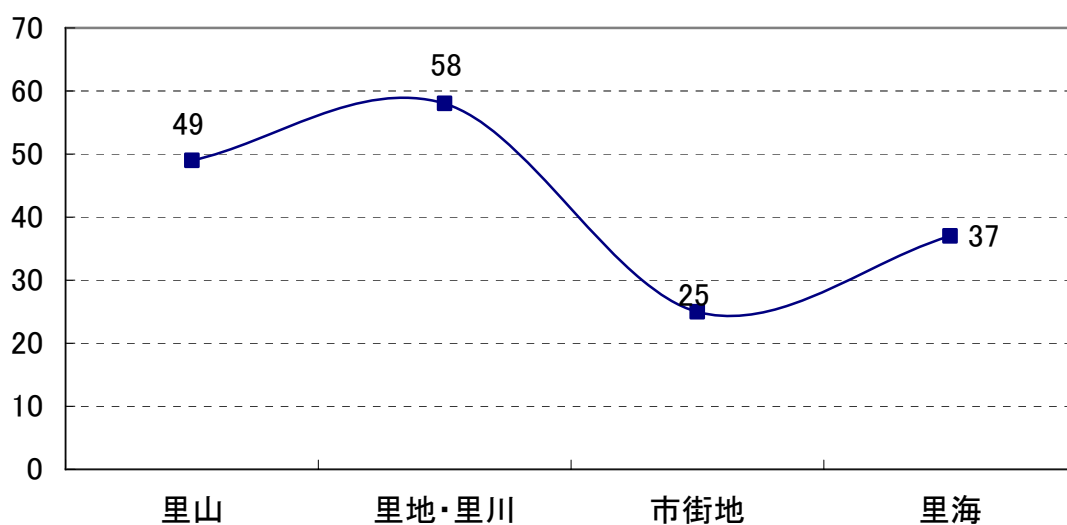


図9 地域別確認種数

图10 时期别记录种数(里山)

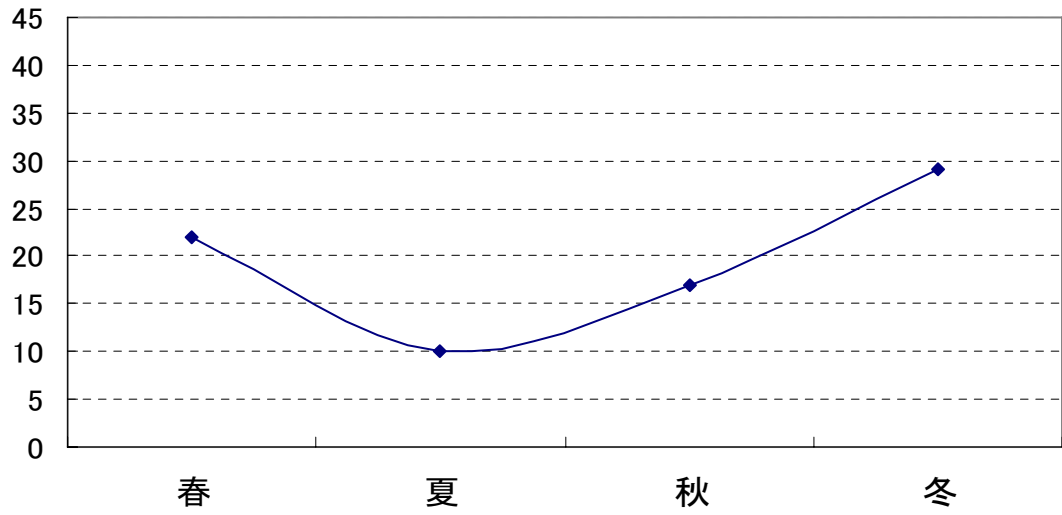


图11 时期别记录种数(里地·里川)

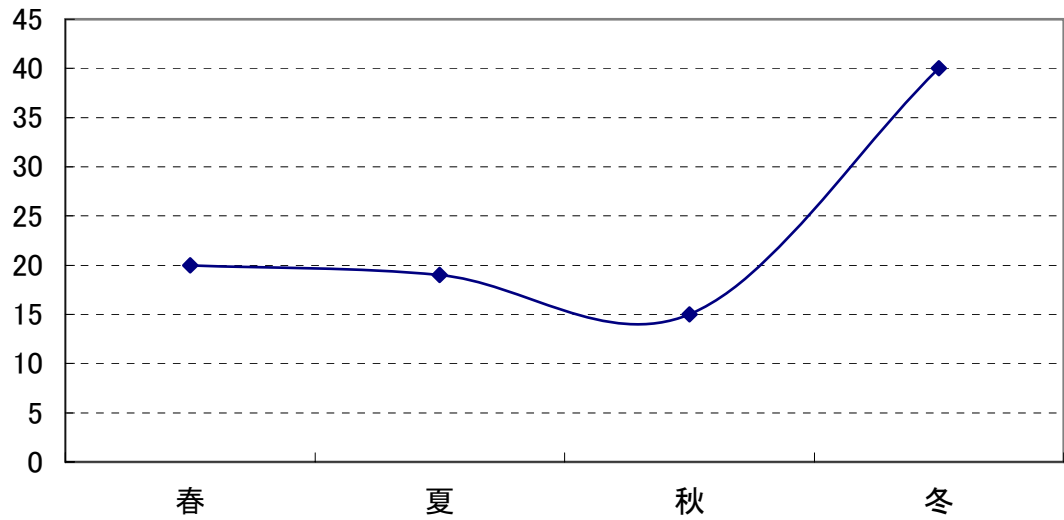


图12 时期别种数记录(市街地)

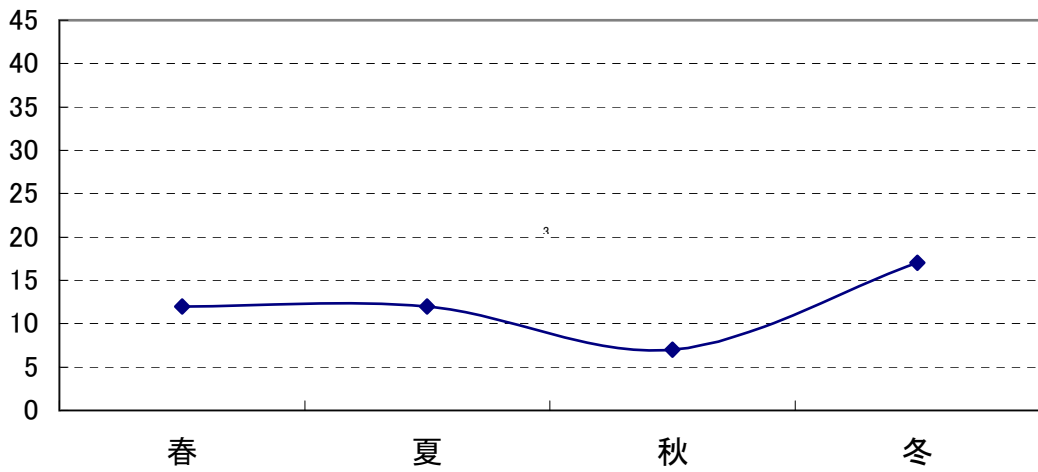
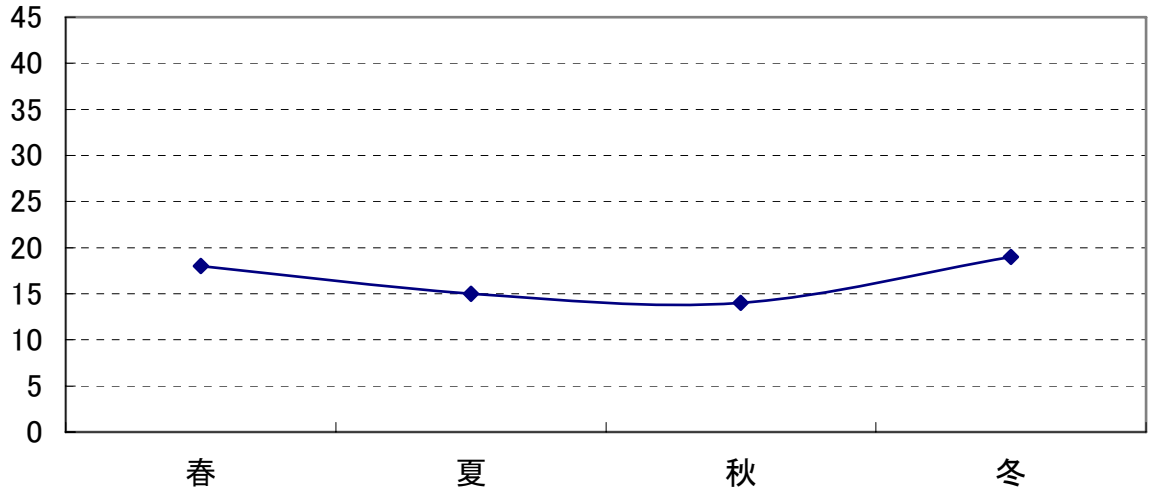


図13 時期別記録種数(里海)



注) 図 9~13 は、季節ごとの記録種数の傾向を把握するために、調査結果を月によって季節に区分し、数値を平滑化しました。

図 14 地域別調査記録

科名	種名	県調査結果(*) (1986~91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域
アトリ	アトリ	○					
	イカル	○					
	ウソ	○					
	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
	シメ	○	○	○			○
	マヒワ						
アマツバメ	アマツバメ	○					
	ヒメアマツバメ	○					
ウ	ウミウ	○				○	○
	カワウ		○	○		○	○
エナガ	エナガ	○	○				○
カイツブリ	アカエリカイツブリ	○					
	カイツブリ			○			○
	カンムリカイツブリ	○				○	○
カモ	アヒル						

科名	種名	県調査結果(*) (1986～91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域
カモ	ウミアイサ			○			○
	オカヨシガモ		○	○			○
	オシドリ	○					
	オナガガモ	○					
	カルガモ	○	○	○	○	○	○
	キンクロハジロ		○				○
	コガモ	○	○	○	○		○
	シマアジ						
	スズガモ	○				○	○
	ハシビロガモ			○			○
	ヒドリガモ					○	○
	ホシハジロ	○	○				○
	マガモ	○			○		○
	ミコアイサ				○		○
	ヨシガモ	○					
	アイガモ				○		○
	カモメ	アジサシ					
ウミネコ		○				○	○
オオセグロカモメ		○					
カモメ		○					
コアジサシ		○					
セグロカモメ		○				○	○
ユリカモメ		○		○		○	○
カラス	オナガ	○	○				○
	カケス	○	○				○
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○
カワセミ	アカショウビン	○					
	カワセミ	○	○	○		○	○
キジ	キジ	○	○	○			○
	コジュケイ	○	○	○			○
	ヤマドリ	○					
キツツキ	アオゲラ		○				○
	アカゲラ	○					

科名	種名	県調査結果(*) (1986～91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域
キツツキ	アリスイ	○					
	コゲラ	○	○		○	○	○
クイナ	オオバン			○			○
	クイナ	○					
サギ	バン	○		○			○
	ヒクイナ						
	アオサギ	○	○	○			○
	アマサギ	○		○			○
	カラシラサギ	○					
	ゴイサギ	○		○			○
	コサギ	○	○	○		○	○
	ササゴイ	○					
	ダイサギ	○	○	○			○
	チュウサギ	○					
シギ	ヨシゴイ	○					
	アオアシシギ						
	イソシギ	○		○			○
	オオソリハシシギ						
	オグロシギ	○					
	キアシシギ	○					
	キョウジョシギ	○					
	キリアイ	○					
	クサシギ						
	コアオアシシギ	○					
	サルハマシギ	○					
	ソリハシシギ	○					
	タカブシギ	○					
	タシギ	○		○	○		○
	チュウシャクシギ	○				○	○
	ツルシギ						
	トウネン						
	ハマシギ	○					
ミュビシギ					○	○	
ヤマシギ	○						

科名	種名	県調査結果(*) (1986～91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域
シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○
	ヒガラ	○					
	ヤマガラ		○			○	○
セイタカシギ	セイタカシギ						
セキレイ	キセキレイ	○	○	○			○
	セグロセキレイ	○	○	○			○
	タヒバリ	○	○	○			○
タカ	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○
	ビンズイ	○			○		○
	オオタカ		○	○			○
	サシバ	○	○				○
	トビ	○	○	○	○	○	○
	ノスリ	○		○			○
	ハイタカ	○					
	ミサゴ			○			○
	タマシギ	タマシギ	○				
	チドリ	イカルチドリ	○		○		
オオメダイチドリ							
ケリ		○					
コチドリ		○	○	○			○
シロチドリ		○				○	○
ダイゼン		○					
タゲリ		○		○			○
ムナグロ		○					
メダイチドリ							
ツバメ		イワツバメ	○				○
	コシアカツバメ	○				○	○
	ショウドウツバメ	○					
	ツバメ	○	○	○	○	○	○
ツリスガラ	ツリスガラ						
ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○	
ハト	アオバト	○			○		○
	キジバト	○	○	○	○	○	○
	ドバト			○	○	○	○

科名	種名	県調査結果(*) (1986～91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域	
ハヤブサ	チョウゲンボウ	○		○			○	
	ハヤブサ	○		○			○	
ヒタキ	アカハラ	○			○		○	
	イソヒヨドリ	○			○		○	
	ウグイス	○	○	○		○	○	
	オオヨシキリ	○						
	オオルリ							
	キクイタダキ	○						
	キビタキ	○						
	コサメビタキ	○						
	サンコウチョウ	○						
	ジョウビタキ	○	○	○		○	○	
	シロハラ	○	○				○	
	セッカ	○		○			○	
	センダイムシクイ	○	○				○	
	ツグミ	○	○	○	○	○	○	
	トラツグミ	○						
	ノビタキ	○						
	メボソムシクイ	○						
	ルリビタキ							
	ヒバリ	ヒバリ	○	○	○			○
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	○						
フクロウ	アオバズク	○						
	コノハズク							
	フクロウ	○						
ホオジロ	アオジ	○	○	○			○	
	オオジュリン	○						
	カシラダカ	○	○	○			○	
	クロジ	○						
	ホオアカ	○			○		○	
	ホオジロ	○	○	○		○	○	
	ミヤマホオジロ	○						
ホトトギス	カッコウ	○						

科名	種名	県調査結果(*) (1986～91年)	里山	里地 里川	市街地	里海	全域
ホトトギス	ホトトギス	○	○				○
ミズナギドリ	オオミズナギドリ						
	ハシボソミズナギドリ	○				○	○
ミソサザイ	ミソサザイ		○				○
ミヤコドリ	ミヤコドリ						
ムクドリ	コムクドリ	○				○	○
	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
メジロ	メジロ	○	○	○	○	○	○
モズ	モズ	○	○	○	○		○
レンジャク	キレンジャク						
	ヒレンジャク	○					
総計(種数)		125	49	58	25	37	88

(*)『かながわの鳥 86-91』より

野鳥のくらし

(1) 野鳥が運んだ自然

野鳥によって運ばれ、芽生えた植物にはどのような木があるか確認することを目的に、野鳥調査グループの自宅やその付近の庭先で芽生えた実生を調査しました。樹木の下や根元、垣根、道路と垣根の境などで、植栽していないのに芽生えものや、植栽はしたのに未結実のものだったり、結実する木から離れた場所で芽生えたものなどです。

植物の種子は、自力で飛ばすもの、風で運ばれるもの、動物などの体について運ばれるものがあります。中には動物に食べられ糞と共に出てきたり、はき出されて地面に落ちたりするものもあります。

草の種子や木の果実の実る頃、野鳥が盛んに飛んできてついでに、種子は果実を食べ物としてついでに、それを栄養にし、鳥のエネルギー源になります。ところが、野鳥の体内に飲み込まれたはずの種子は、硬くて消化できません。そしてその種子は、糞ともに排出され、口の中で飲み込めない堅い種子ははき出されます。これらの排出やはき出し種子は、野鳥の体内を通過するうち、発芽しやすい状態になって地面に落ちます。水分や肥えた土などの環境が整えば、春先や数年後に芽生えます。

このような植物を「野鳥による実生」として、鳥のちょっとした行為から将来において芽生え、生長し、自然を育むことにつながると考えます。

調査結果は次の通りです。

※ A:国道一号線以北（香川、高田、矢畑、浜之郷、芹沢など）

B:国道1号線以南（中海岸、東海岸南、東海岸北、浜竹など）

図 15 野鳥による実生

種名	A	B
アオキ	○	○
イヌビワ	○	○
イヌマキ	○	○
イロハモミジ	○	○
イボタノキ		○
イヌシデ		○
エノキ		○
オオバイボタ		○
キヅタ	○	○
キンカナメモチ	○	
クコ	○	○
クスノキ	○	○
グミ	○	○
クワ	○	
ゲッケイジュ	○	
サンショウ	○	○
シュロ	○	○
シロダモ	○	○
センダン		○
センリョウ	○	○
タブノキ	○	○
タマサング		○
トウネズミ		
トベラ	○	
ナンテン	○	○
ニッケイ		○
ヌルデ	○	○
ネズミモチ	○	○
ハゼノキ		○

種名	A	B
ヒサカキ	○	○
ピラカンサス	○	○
ビワ		○
マンリョウ	○	○
ムクノキ	○	○
ムラサキシキブ		○
ヤツデ	○	○
合計	28 種	31 種

野鳥の体内で消化されずに糞として排出されたもの、口の中で食べ残してはき出された種子を採集し、植物の種子の形状や色合いを調べ、どのような植物の種子であるかを調査し・同定できた種子、20種を標本ケースに入れて展示します。

採集地は、茅ヶ崎市東海岸南の住宅地です。今後の課題として野鳥が何らかの方法で運んだ種子がどこからきたものかについても、追跡調査が必要です。

採集した種子：センダン、ハゼノキ、ノイバラ、トベラ、ピラカンサ、マンリョウ、サネカズラ（ピナンカズラ）、スタジイ、ツタ、エノキ、クロマツ、クスノキ、モチノキ、ヤブニッケイ、ヤツデ、コノテガシワ、カクレミノ、シロダモ、カキ、エゴノキ（計20種）

（2）野鳥が食べる植物

野山に自生する「実のなる木」、園芸種が街路樹や公園、庭などに観賞用として植えられる「実のなる木」があります。これらの「実のなる木」は、野鳥の好む実が多く、食べられてしまうことがあります。

赤い実では、マンリョウやナンテン、黒っぽい実ではイヌツゲやヒサカキ、楕円形の実ではアオキ、扁平な実ではピラカンサが食べられます。また小さな種子のススキなども食べられます。美しい実の色や形、美味しさなどに分けられますが、色々な角度から「実のなる木」の一部を展示しています。

矢畑における、「実のなる木」の食べられる優先順位ではカキ→ピラカンサ→ナンテン→マンリョウ→イヌツゲ→ヒサカキであり赤色や橙色の実から黒紫色や黒青色の実の順でした。またピラカンサとイチバナモドキでは、ピラカンサの方が先に食べられてしまっていました。

図 16 鳥が食べる植物質の食べもの

鳥の種名	植物質(種子、果実、葉など)の食べもの
スズメ	穀類、エノコログサ
カワラヒワ	穀類、ヒマワリ、ハコペの花・種子、コノテガシワの種子
シジュウカラ	ヒマワリ
メジロ	ピラカンサ、熟したカキ、
ムクドリ	ピラカンサ、熟したカキ、クワの実、花の蜜、木の実
ヒヨドリ	ピラカンサ、熟したカキ、クワの実、花の蜜、アオキなどの実
ハシボソガラス	カキなどの果実、落花生
ハシブトガラス	生ゴミ
オナガ	カキ、ビワなどの実、
キジバト	草の種子や木の実
ツグミ	ピラカンサ、木の実
ジョウビタキ	ヘクソカズラなどの葉・種子、ピラカンサなどの実・果実
アオジ	地上で植物の種子
ウグイス	果汁
シメ	オオブタクサなどの草の種子、堅い木の実
カルガモ	草の種子、穀類、水生植物
カイツブリ	水草
ホオジロ	草の種子
コジュケイ	草の種子
キジ	草の種子
コムクドリ	熟したカキ

図 17 実を食べる鳥(植物別)

植物の種名	実を食べる鳥の種名
クログネモチ	ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ムクドリ
ウメモドキ	ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ムクドリ
ピラカンサ	ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ムクドリ、カワラヒワ
モチノキ	ヒヨドリ
アオキ	ヒヨドリ
ガマズミ	メジロ
ヌルデ	イカル、シメ
イヌシデ	イカル、シメ
ススキ	ホオジロ、カシラダカ

植物の種名	実を食べる鳥の種名
メヒシバ	ホオジロ、カシラダカ
シュロ	ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ムクドリ
ムラサキシキブ	ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ムクドリ
クワ	ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ
ツバキ	ヒヨドリ
サクラ(花蜜)	ヒヨドリ
ビワ	ハシボソカラス
エノキ	シメ、ヒヨドリ、ムクドリ
ムクノキ	ヒヨドリ、シメ、ムクドリ、ツグミ
タブノキ	ヒヨドリ、ムクドリ、オナガ
ネズミモチ	ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ
トベラ	ヒヨドリ、ムクドリ
マツ	カワラヒワ
グミ	ヒヨドリ ムクドリ
マユミ	ヒヨドリ
ウメ(花蜜)	メジロ、ヒヨドリ
ツバキ(花蜜)	ヒヨドリ
ヤツデ(実・花蜜)	ヒヨドリ、ツグミ、メジロ
ナンテン	ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、
ヒサカキ	ヒヨドリ、
ヒメリンゴ	ヒヨドリ
マユミ	ヒヨドリ、ツグミ
マサキ	ヒヨドリ、ムクドリ、カワラヒワ
イヌツゲ	ヒヨドリ、ツグミ
イヌマキ	ヒヨドリ
ウメモドキ	ヒヨドリ、メジロ
アセビ(花蜜)	メジロ
センリョウ	ヒヨドリ
サザンカ(花蜜)	メジロ

(3) 捕る、食べる

野鳥のくらしで重要な活動は、捕って食べることです。野外で野鳥を見るとき、野鳥がめまぐるしく動き回っているのは食べ物を探しているからです。では、どんなところでどんな食べ物を探しているのでしょうか？

木の枝や葉のうら、枯れ木、枯れ草の葉の付け根、地面に落ちた草の種子を探し求めます。また水辺、湿地、泥や土の中の生き物も食べ物の対象となります。1羽の野鳥をずっと追いつけると、食べ物を捕ったり、食べたりする瞬間に出会うことができます。市内では23種の「捕る」、「食べる」といった行動を写真に記録することができました。

写真リスト：コアジサシ（小魚）、ホオジロ（アオムシ）、チュウサギ（ザリガニ）、チュウシャクシギ（アシハラガニ）、カワラヒワ（ヒマワリ種子、アブラナ科やタデ科の種子）、カルガモ（イヌタデの種子と水）、コガモ（水）、スズメ（メヒシバの種子、穀類）、メダイチドリ（ゴカイ、ミミズ）、ヒヨドリ（アブラゼミ）、ムクドリ（ピラカンサ、熟したカキ）、カワセミ（小魚）、シジュウカラ（アオムシ）、ウグイス（熟したカキ）、キセキレイ（トンボ）、モズ（虫の幼虫）、ツグミ（ピラカンサ、熟したカキ）、ササゴイ（小魚）、ミサゴ（大型の魚）、ジョウビタキ（ムカデ）、コゲラ（トンボ）、トビ（ヘビの死体）、ヒドリガモ（草の葉）、オオバン（草の葉）、バン（草）、オオバン（草）、コムクドリ（虫）、オナガ（熟したカキ）、コサギ（魚）、メジロ（熟したカキ）、ウグイス（熟し柿）、ハシブトガラス（熟したカキ）、ジョウビタキ（ピラカンサ）

（計 23 種、33 点）

図 18 鳥が食べる動物質の食べもの

種名	動物質の食べもの
スズメ	ヨトウムシ幼虫、アオバハゴロモ
シジュウカラ	バッタ、ミノムシ、アオムシ
メジロ	クモ、アブラムシ、昆虫
ムクドリ	コガネムシの幼虫
ヒヨドリ	セミ、トンボ、
ハシボソガラス	魚類、小動物
ハシブトガラス	生ゴミ、鳥の巣の卵やヒナ
オナガ	昆虫
コゲラ	朽ちた木の昆虫
ツバメ	空中の昆虫

種名	動物質の食べもの
ツグミ	ミミズ
ジョウビタキ	アブラムシやテントウムシの幼虫、ムカデ
アオジ	ヒナには昆虫
ウグイス	昆虫
ハクセキレイ	昆虫
カワセミ	昆虫(アカトンボ)
コサギ	魚、カエル、ザリガニ
ゴイサギ	小魚
カイツブリ	魚、水生昆虫
オオヨシキリ	昆虫、クモ
セッカ	草むらの昆虫
ホオジロ	ヒナには昆虫
コジュケイ	昆虫
モズ	昆虫、バッタ、アマガエル、ドジョウ、カナヘビ
タゲリ	ミミズなどの小動物
ダイサギ	魚類
カワウ	魚類
アオサギ	魚類
メダイチドリ	ゴカイ
チュウシャクシギ	カニ
ウミネコ	魚類
ミサゴ	魚(コイ科)
トビ	ヘビの死骸
コムクドリ	木にいるアオムシ
キセキレイ	昆虫(アカトンボ)

(4) 電線鳥

電線、電柱、鉄塔などの工作物に止まる野鳥を「電線鳥」と、今回の特別展で呼びこにしました。電線は高所にあり、まわりも遮るものが少ないので、多くの種類の野鳥が電線に止まります。

スズメを例にすると、太陽の光、順光、斜光、逆光といったさまざまな光線で色々な見方ができます。順光ではスズメの姿や羽の色が見られ、逆行ではスズメの影絵のように見られます。また朝、昼、夕の光の具合の変化で、色も様々に色が変わる事がわかります。

今回の調査及び過去の記録から、市内で36種類を確認できました。

電線鳥の観察は、まわりの交通事情に注意し、危なくないように気をつけて観察します。

写真展示：オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、コムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、キジバト、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ジョウビタキ（♀）、シメ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、ツグミ、イソヒヨドリ、ツバメ、コシアカツバメ、ホオジロ、トビ、チョウゲンボウ、カワラヒワ、ユリカモメ、ウミネコ、メジロ、コサメビタキ、エゾビタキ、オオタカ（幼鳥）、コサギ、

写真記録なし：オオヨシキリ、ウグイス、キレンジャク、ホトトギス

（計36種）

（5）鳥の羽、はばたき

前述したとおり、鳥のからだの特徴の一つは、色々な羽が生え、それぞれの種類の特有の模様を持っていることです。ただ美しいというだけでなく、飛翔、防水、断熱という機能も持っています。

羽の模様の特徴は、保護色をしていることです。そのため外敵から身を守ることができます。また同種の自分の存在を示すことができるという、優れた側面もあります。

鳥がもつこれらの特徴を見ていただくため、68点ある保存資料の中から標本を展示します。

また29種の鳥がはばたいている様子を、写真展示します。

展示リスト：アオサギ、アジサシ、アマサギ、アオバト、イソヒヨドリ、イワツバメ、ウミネコ、オナガ、カワウ、カルガモ、カワセミ、キジ、キセキレイ、キジバト、コアジサシ、コサギ、スズメ、ダイサギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハクセキレイ、ミサゴ、タゲリ、トビ、ホオジロ、ヤマガラ、ユリカモメ、ケリ（計29種）

（6）育てる

野鳥の世界で最も華やかな季節は、春から夏にかけての繁殖期です。求愛、巣作り、育雛、採餌などの繁殖にかかわる行動は興味深く見ることができます。鳥の繁殖期間が短いのは、出産を早くすませ、体重の増加を少なくするためといわれています。

鳥のヒナは、一つは地上で巣を作るキジやカモのように生まれたときから体に羽毛が生え目も開いて親鳥の後をついて歩き、自分から餌を捕って、食べることができる早成性のものと、木の上に巣つくるハトや小さな鳥のように生まれたときには羽毛がなく、動きも不自由で巣の中で親鳥から餌をもらって巣立ちまで育てられる晩成性のものに

分けられます。

繁殖期における観察は、野鳥の生活を脅かすので観察や撮影には注意を払う必要があります。

巢の標本、写真、また卵のレプリカを展示します。

巢の標本展示：シジュウカラ、モズ、メジロ、ヒヨドリ、セッカ、スズメ、クロツグミ

写真展示：コチドリ、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリ、コゲラ、メジロ、ツバメ、イワツバメ、バン、アオサギ、ホオジロ、オナガ、トビ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カルガモ、カワラヒワ

ともに生きる

今回の特別展で、野鳥が身近な存在であることが感じていただけたのではないのでしょうか。

野鳥の姿を見つけて、きれいな声でさえずっているのを観て、かわいい、きれいだなと感じる人もいれば、うるさく、目障りだと感じる人もいるでしょう。またさえずりの声さえも意識せずに、存在に気づかない人もいるでしょう。

同じ大地で生きている以上、人と鳥が無関係でいることはできません。人の生活空間の拡大は鳥の生活環境に大きく影響します。たとえば、プラスチック製のゴミを飲み込んでしまう海鳥がいたり、漁網に潜水する鳥がかかってしまったりすることなどがあります。また都市化による市街地の拡大によって、鳥の生息地を狭めてしまっている場合があります。

人の視点から見れば、リンゴやキャベツといった農産物を鳥が食い荒らしてしまい、生産者に深刻な打撃をあたえている食害が起きていることも事実です。また鳥が好きな人はあまり気にならなくても、糞や鳴き声、においが生理的に嫌悪感を与える場合があります。しかし鳥が食べる昆虫の数は非常に多く、その中には大切な木や農作物に被害を与える害虫も含まれています。一方で繁殖期を含め、鳥の存在は人に季節を感じさせるという、心的な潤いを与え、生活の一部を担っていると考えられます。

人が自然とともに存在し、自然を尊重しながら生きていく大切さの一つの具体例として今回の特別展が参考となれば幸いです。

鳥の用語集

標準和名	日本各地の方言などでつけられた地方名では不便なので、全国共通の名前がつけられました。これを標準和名といいます。
学名	世界各地のことばでつけられた名前では不便なので、万国共通の名前があります。リンネが提唱した方法(ラテン語の属名+種小名)でつけられています。
英名	英語であらわした名前です。
全長	くちばしから尾の先までをまっすぐにのばしたときの長さのことで、図鑑では「L」記号で表されることが多いです。
翼開長	左右の翼をまっすぐに広げたときの翼の先から先までの長さのことで、「W」の記号で表されることが多いです。
ヒナ	一般に、ふ化後羽毛が揃い巣立つまでの期間の鳥のことで、小鳥では、巣立ち後の、親から世話をうけている時期も含まれます。
幼鳥	巣立ち後、第1回換羽までの時期の鳥をいいます。
若鳥	第1回換羽後、成鳥羽に換羽するまでの時期の鳥をいいます。
成鳥	繁殖できる年齢以上の鳥のことで、成鳥になるまでの期間は種によってちがいます。
上面	翼のつけねを境に、身体の背側を上面といいます。
下面	翼のつけねを境に、身体の腹側を下面といいます。
夏羽	繁殖期やつがいをつくる時期の羽色のことで、生殖羽、繁殖羽ともいいます。
冬羽	非繁殖期の羽色で、非生殖羽、非繁殖羽ともいいます。一般に地味ない色をしています。
エクリップス	カモ類のオスは、繁殖期の後に全身換羽がおこなわれます。羽色はメスに似て地味になります。この時期の羽をエクリップスといいます。
飾り羽	繁殖期に見られ、他の時期には見られない美しい羽毛のことをいいます。
冠羽	頭部からはえている冠状の羽のことをいいます。例えば、ゴイサギの後頭部の白い羽がそうです。

翼鏡	カモ類の次列風切羽の光沢のある美しい羽のことで、飛んだときに目立つので、識別ポイントになります。
横じま	脊椎に対して直角に交わるしま模様のことです。
縦じま	脊椎と平行するしま模様のことです。
さえずり	主に繁殖期にする独特な鳴き方のことで、一般的にはオスが鳴きます。ソングといいます。
聞きなし	さえずりを人の言葉にたとえたもののことです。 例)メジロ…長兵衛忠兵衛長忠兵衛 フクロウ…ボロ着て奉公 ウグイス…法法華経
地鳴き	季節、年齢の区別のない鳴き方で、個体同士の合図に使われていると考えられています。コールといいます。
ぐぜり	完成されたさえずりとは違い、はっきりせずつぶやくような鳴き方のことをいいます。
ドラミング	鳴き声ではなく音をだす動作のひとつで、キツツキ類ではくちばしを使って木をたたくことをいいます。また、キジやヤマドリでは翼をふるわせることをいいます。
グライディング	羽ばたかず、翼を広げてすべるような飛び方をいいます。
ソアリング	羽ばたかず、翼を広げて上昇気流などを利用した飛び方をいいます。大型の海鳥やワシ・タカ類に多く見られます。
ホバリング	一カ所にとどまったまま飛ぶ方法のことで、カワセミやチョウゲンボウなどによく見られる行動です。
ディスプレイ ライト	求愛やなわばりを主張する誇示行動としての飛び方のことで、オオジシギやキジバトなどでよく見られます。
コロニー	同じ種が集団で繁殖する場所のことで、サギ類、カモメ類、アジサシ類などでよく見られます。
渡り	季節の変化にともない、繁殖地と越冬地を年に一往復することをいいます。渡りを行う鳥を「渡り鳥」といいます。
夏鳥	繁殖のために日本に渡来する渡り鳥のことで、春に渡来し秋に南方へ渡っていきます。

冬鳥	越冬のために日本に渡来する渡り鳥のことで、秋に渡来し春に北方へ帰っていきます。
留鳥	同じ地域に一年中生息する、季節的な移動をしない鳥のことをいいます。
旅鳥	春や秋の渡りの時期に日本を通過する際、一時的に日本に立ち寄る鳥のことで、一般的に日本の南方で越冬し、北方で繁殖します。
迷鳥	その種の通常の分布や渡りのコースから大きく外れて日本に渡来した鳥のことをいいます。
換羽	羽毛が抜けかわることをいいます。年1回の全身の換羽は夏の終わりに行われますが、春にも一部の換羽が行われるものもいます。幼鳥はその年の夏の終わりの換羽で若鳥の羽毛になります。
托卵	自分では巣を作らずにほかの鳥の巣に卵を産み、ヒナを育てさせることをいいます。その巣の親を「仮親」といい、托卵する側の親は、仮親の産む卵とよく似た卵を産みます。日本ではホトギス科の鳥が行っています。
はやにえ	とらえた獲物を枝や有刺鉄線などに刺したり挟んだりすることで、モズの仲間が行います。獲物は、昆虫をはじめ小魚、鳥、カエルなど様々です。
なわばり	繁殖や食べ物の確保のために、個体やつがいなどが、同種または異種に対して防衛する範囲のことで、一般に身体の高いものほど広いなわばりを持ちます。主に繁殖期にオスが、なわばりの境界線でさえずりま
陸鳥	主に森林や草原などの陸上で生活する鳥のことをいいます。
水鳥	主に池沼、河川などの水辺や海上で生活する鳥のことをいいます。

財) 日本鳥類保護連盟より

おわりに

都市化によって、茅ヶ崎市の自然環境も変化しています。16年前に、神奈川県によって行われた調査結果と比較すると、その変化をうかがうことができます。しかしながら、かつての茅ヶ崎らしさを伝える自然が今も市内にあることも確かです。

2004年7月から2006年12月まで23回、市内を4つの区域に分け、市民ボランティアの方々とともに踏査を行ってきました。また開館以来収集・保存した自然史資料を、様々なテーマを設定して、調査結果に基づいて展示しました。展示資料を補完するため、カービングや模型などを製作することも、市民ボランティアの協力を得て行いました。

今回の特別展で、茅ヶ崎に生息する野鳥のことを少しでも多くの方に知っていただき、併せて私たちの身近にある自然に興味・関心をもち、考える端緒としていただければ幸いです。

企画制作展示

■ 茅ヶ崎市文化資料館

須藤 格（生涯学習課文化財保護担当）、小室明彦（社会教育嘱託員）

展示協力

■ 自然資料整理グループ

天野孝子、石井準子、伊藤博幸、大橋廣正、奥野攻、河村まき子、藏前かづえ、河野正子、齊藤溢子、鳶田壽雄、竹内民江、野田瑞江、野中聖子、三輪徳子、目黒啓子、安井利子、吉田弥生（50音順）

■ 民俗資料整理グループのみなさま

特別展 ちがさきの野鳥と自然～里の鳥たち～

平成19年(2007年)2月発行

●編集 茅ヶ崎市文化資料館

〒253-0055

神奈川県茅ヶ崎市中海岸2丁目2番18号

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

TEL:0467-85-1733

●発行 茅ヶ崎市教育委員会